

ライチョウ調査開始のご報告

上野 薫 (中部大学応用生物学部 講師)

2014 年度は、太郎平にてライチョウ調査を開始することができた記念すべき年度となりました。第 24 期・25 期自然保護助成基金の支援を受けての実施です。ライチョウが何を食べているのか、健全に成長するのに必要なハビタットはどんな環境なのかを明らかにすることを目指しています。2014 年度に学生 (4 年生) は 6 月 14 日の開山祭から 10 月まで毎月山に上がり、のべ 15 日間の調査となりました。

今期の観察対象は、母親が雛 8 個体をつれているファミリーでした。ここでは、採食していた植物を紹介します。

7 月の雛は、クロマメノキ、チングルマの芽のみを採食し、母親はそれ以外にイワイチョウやガンコウラン、コイワカガミ、コメススキ、ミネズオウの葉や芽や花を採食していました。7 月中旬の雛はまだ黄色くかわいい盛りで、毎日羽がどんどん伸びていくのが目で見てわかるかのようなようでした。母親は雛が食べることのできる植物が生えている環境を、ゆっくりと首を伸ばして声を出して確認しながら移動をし続けていました。さながら、ヤギを放牧しているヤギ使いのようでした。母親の採食時には「ブチブチ」と植物がちぎれる大きな音が聞こえましたが、雛の採食時にはそのような音は聞こえませんでした。明らかに、母親よりも食いちぎる力が弱く、同じものを採食するのは難しいようでした。

8 月には雛は成長して茶色くなり、逞しくなっていました。採食物は、母親と全く同じで、イワイチョウ、ガンコウラン、クロマメノキ、コメススキ、チングルマ、ミネズオウの葉や芽、穂を利用していました。植物を引きちぎる力も同等になったようでした。9 月と 10 月には、残念ながらこのファミリーを確認することはできませんでした。対象エリアに、ライチョウのものと思われる鳥の羽の残骸が発見されたので、もしかしたらオコジョか何かに襲われ、場所を移動したのかもしれない。実際に 8 月調査時には、このエリアでオコジョとライチョウ (母) との戦いの場面を目撃しています。この画像は、追ってまた皆さんにお見せできるようにしたいと思います。

乗鞍などに比べたら、太郎平は植生が比較的均質です。冬にたっぷり雪がついて、それが徐々に融けていくにつれて、彼らが食べたいと思える植物が時差をもって成長をはじめます。まだ雪や温度とライチョウの採食植物の関係などについての議論はできませんが、空撮や温度モニタリングや地理情報システム (GIS) の活用、そして地道なライチョウや植物自体の観察を深めていくことで、今後太郎平のライチョウがどう生き延びていくのか、温暖化などの議論ができていくことになると思っています。

私たち中部大グループは山の知識も技術なく、我々だけではこの研究を始めることはできませんでした。これまでのライチョウ研究の諸先輩方からの勇気の出る励まし、本 NPO のメンバーによるこれまでの研究履歴と現地との人的つながり、天候を読む技術

や現場の情報の直接的なご提供、また、マスターをはじめとする太郎平小屋の皆さんには、学生が安心して調査活動が続けることのできるベースキャンプとして懐深く受け入れて頂いております。皆様には心より感謝申し上げます。少しずつかもしれませんが、現場の情報を NPO にフィードバックして、現場の素晴らしさを伝えるとともに、科学的に意味のある根拠を示していきたいと思っております。この研究は、今後も続きます。やんちゃな若者たちがまたお邪魔いたします。私も足取りの邪魔をするばかりではありますが、できるだけ上がりたいと思っています。新年度も、皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。一緒に上がりお手伝いをしたいと思ったださる方が居られましたら、どうぞご一報ください！お待ちしております。

